

まだらの風



令和7年2月25日
学校便り No.21
校長 原口 真

『 見つけよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、高めよう馬渡の力 』
～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～

グラウンドの大木(榎)が伐採されるにあたり、大木の前で『まだらだから』を歌ってから記念撮影をしました。伐採されてもいつまでも子どもたちの記憶に残ってくれればと思います。長年見守っていただきありがとうございました。

学校評議員会開催～学校運営に地域の声を活かして～



2月12日、地域の富永さん、牧山さんにお越しいただき学校評議員会を行いました。小学校教室を回って電子黒板やタブレットで学習に取り組む姿、外国語活動の様子や教室内外の学習成果物等を参観していただきました。学習指導や心の教育、キャリア教育には高い評価をいただいた一方、教職員の働き方改革については厳しいご意見もいただきました。今後も子ども育成の充実と業務改善の両立を目指して学校運営を進めていきます。

加唐小とオンライン交流授業を行いました

2月14日の5年生の国語の授業は、馬渡小と加唐小の教室をweb会議ソフト(Teams)で接続してオンライン交流授業を行いました。「提案します、1週間チャレンジ」という学習単元で、朝の時間に1週間続けて挑戦することは何がよいか？をプレゼンして決めるものです。3人がそれぞれ提案したのは、「給食の食材クイズ週間」「外で遊ぼう週間」「絵しりとり週間」でした。説得力を持たせられるように工夫して提案し、お互いの良さを「提案の内容」「構成の工夫」「表現の工夫」から評価し合います。普段と違う交流の「相手」がいることで学習が活性化しました。今後もできる機会に様々なクラスで取り組んでいきます。



ギター演奏会～デイケア訪問で地域の方々と交流しました～

2月14日、老人憩の家でギター演奏会を行いました。この演奏会に向けて中学生は2か月前からギターの練習に励んできました。特に1年生は初めてギターに触ってから数カ月なので朝練習も重ねて臨みました。憩の家に集まられたおじいちゃんおばあちゃん方から温かく迎えられ、アイスブレイクのゲームでお互いの緊張感をとったらいよいよ演奏開始です。1曲目は『マリーゴールド』の明るく親しみやすいメロディーの演奏に山下さんのボーカルを重ね、2曲目は馬渡島の歌『まだらだから』。地域の方に紹介するのは初めてです。2・3年生の演奏に1年生の合唱で「番所の辻」「田尻の海」「尾崎の鼻」「教会」など島の見どころ、良い所を歌いました。演奏と歌にみなさん聞き入って笑顔で喜んでいただきたくさんの拍手で包まれました。「ありがとう」「上手だった」「とってもよかった」とほめていただき、演奏会をやり遂げた子どもたちも満足げな表情でした。



『まだらだから』おひろめ会～たくさんの島民の方々の前で歌うことができました！～

2月21日、徳丸英器さんと、この曲作りに関わった3名のミュージシャンが来島されて『まだらだから』おひろめ会が開催されました。体育館には平日の日中にもかかわらず80名ほど！も集まっていただきました。はじめて公開されたミュージックビデオには馬渡島の美しい景色と人々の暮らしがいきいきと映し出され拍手がわきおこります。会場をグラウンドに移し、どこまでも続く空と海の下、徳丸さんと14名の子どもたちが一緒になって『まだらだから』の合唱を披露すると、島民のみなさんから盛大な拍手で称えていただきました。子どもたちは、「島民の方たちが笑顔でうれしかった」「馬渡の魅力を改めて見つけることができた」「みんなに感動を与える歌だと思った」「これからもこの歌を伝えて広めていきたい」などと気持ちを高めていました。なお、おひろめ会の様子は、2月25日放送のぴーぐる放送(ch11)、チャンネルからつ(ch12)、「からつ七つの島宝探し留学」のInstagramでも紹介されています。

